

Vol.80

石狩開発 株式会社

ISHIKARI DEVELOPMENT CO. LTD

編集発行/営業推進部

北海道石狩市新港西 1-721-11

TEL 0133(72)2300 FAX 0133(72)4055

http://www.ishikari-dev.co.jp

# 石狩・湾・新・港・地・域 SAPPORT NEWS

●産業拠点● SYNERGY = SAPPORO × PORT × INDUSTRY



▲稼働を開始した石狩 DC



▲導入された AGV (Automatic Guided Vehicle)



【住所】(株)ホームロジスティクス 石狩 DC

石狩市新港南 2 丁目 725-2

【お問い合わせ先】

03-6741-1221 (東京本部 広報)

## ニトリホールディングス 石狩DC稼働開始!

2022年9月に(株)ニトリホールディングス(代表取締役社長 白井俊之)は石狩市新港南2丁目に新たな物流拠点である「石狩DC」の稼働を開始しました。同センターは10万4000平方メートルを超える広大な敷地に、延床面積約7万6000平方メートルの大型物流センターです。こちらはニトリホールディングスが進める国内物流拠点の再構築

の第1段となる物流拠点で、運用はグループ企業である(株)ホームロジスティクスが担います。これまで同社の道内での物流は1980年から札幌市手稲区で稼働している「札幌DC」の建屋増設や外部倉庫の賃借、他の物流センター拠点と在庫を分散することで物量増加に対応してきましたが、今後の店舗出店や、電子商取引

(Eコマース)需要の拡大に対応するため物流拠点の再構築を行い、道内の安定供給を図ります。同センター内には、北海道の雪や風など天候の影響を受けずに搬入搬出が可能な設備や、広大な敷地内で生産性を向上させる「AGV(Automatic Guided Vehicle)」を導入しています。また、BCP対策の一環としてインタンク(自家給油設備)を設置し、スケールメリットを活かした災害備蓄にも対応します。

同センターには従業員やドライバーが利用できる食堂やリラックスルームが設置され、老若男女問わず誰でも働きやすい環境づくりに取り組んでいます。

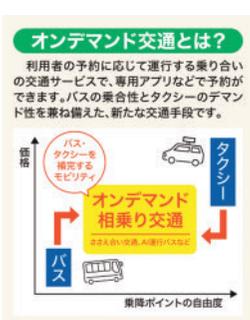
石狩湾新港地域の通勤手段における公共交通の利用率は全体の2%弱に留まり、自家用車(約68%)と立地企業が個別に手配する自社バス(約30%)が主体となっており、新たな公共交通サービスの導入が課題となっています。また市街地においても路線バス利用者は減少傾向にあり、さらに新型コロナウイルス感染症の影響により路線バスの減便が継続しています。

オンデマンド交通はIoT、AI技術を活用し、タクシーの利便性と路線バスの効率性を兼ね備えた新しい交通手段として近年注目を浴びている交通サービスであり、機動的な移動を実現する利便性、リクエストに応じたサービスの提供、既存の公共交通との棲み分けによるサービスの提供を補完性を有しています。全国各地の自治体、交通事業者においても導入、もしくは導入に向けた実証運行が行われており、石狩市においても、石狩湾新港地域における課題を解決する施策として、オンデマンド交通を活用した新たな交通サービスの実証運行を令和4年10月から令和5年3月末までの予定で実施しています。

実証運行では、石狩湾新港地域への通勤を目的とした「通勤オンデマンド交通」(北海道中央バス株式会社に運行を委託)と、市街地内の移動を目的とした「市内オンデマンド交通」(ダイコク交通株式会社および三和交通株式会社)に運行を委託)の2つのサービスを実施しています。いずれも同一の「いつモアプリ」から予約・利用することができ、アプリで簡単に予約できるほか、最短ルートがAIにより提示され、確実に座れて安全・快適に、リアルタイムで運行状況を把握できるといったメリットがあります。

## 持続可能な新たな地域公共交通の導入に向けて ~石狩市におけるオンデマンド交通実証運行の取り組み~

「通勤オンデマンド交通」は、地下鉄麻生駅またはJR手稲駅と石狩湾新港地域を結ぶルートで大型バス2台



で平日の朝夕に運行していきます。実証的にも潜在的にも需要が相応に見込める地域であることから、本格運行に移行した場合も、立地企業が各社で運行されている自社バスの代替手段として、企業間の乗合を促進することで効率的な運行を実現し、立地企業の負担を軽減することが期待されます。また、これまで通勤手段が不足していたことにより、石狩湾新港地域において十分ではなかった雇用の確保に寄与し、さらに、マイカーで通勤する就業者の代替通勤手段となることで負担を軽減することが期待されます。

# 京セラコミュニケーションシステム(株)

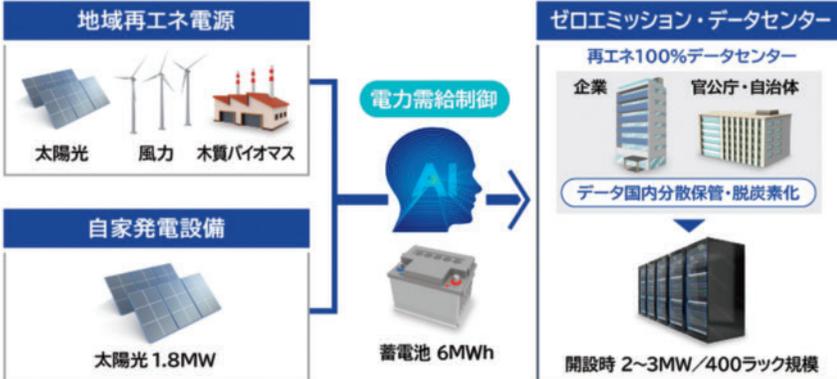
## ～ゼロエミッション・データセンター建設着工～



▲ゼロエミッション・データセンター完成予想図

京セラコミュニケーションシステム株式会社(本社:京都市伏見区 代表取締役社長:黒瀬 善仁、以下KCCS)は、2022年12月、消費電力のすべてを道内で発電された再生可能エネルギーでまかなうゼロエミッション・データセンターの建設に着手しました。総事業費およそ80億円をかけ、2024年秋の開業を目指します。

再生可能エネルギーは気象条件によって発電量が左右されるため、電力の安定性や経済性が課題となっていますが、蓄電池やAIによる電力需給制御の仕組みを独自に構築することにより、KCCSはDCでの再生可能エネルギーの直接利用を目指しています。



▲地域再生エネルギー利用概念図

### ◆ 企業 紹介 ◆

#### 株式会社共翔重量

TEL 0133-77-7812

#### 株式会社大東フーズ

TEL 0133-77-5822

株式会社共翔重量(代表取締役 大山 征二)は当地域内小樽市銭函4丁目に新たに本社兼倉庫を竣工させ2022年10月から操業を開始しています。

同社は、2007年に札幌市北区で操業を開始し、大型冷凍・冷蔵庫の機器類設置工事・メンテナンスや乳牛メーカーの牛乳や飲料用タンク等の据付・設置工事をメインに当地域内、道内外の企業様からの依頼を幅広く受けています。

今回の当地域への進出については、昨今の各種工事の受注増や従業員数の増加等から将来的な事業拡大を見据えたもので、今後の更なる飛躍が期待されます。



▲完成した本社兼倉庫

「炭焼ステーキ BEEF IMPACT」や手作りハンバーグ「ファイヤーバーグ」を運営する株式会社大東フーズのグループ企業である株式会社大東フーズ(本社:札幌市中央区 代表取締役 丹山 東吾)は2022年3月から石狩市新港西3丁目目で石狩工場の操業をしています。

同社では、飲食店のグループ企業である特徴を生かし、食肉の加工・販売を行っており、道内のタレメーカーとタイアップしたオリジナル商品「焼肉あぼじのホルモン」をはじめ、様々な商品を量販店中心に販売しております。

また同グループでは道道石狩手稲線沿いの石狩市花川南7条1丁目に「ファイヤーバーグ」の新店オープンの準備を進めています。

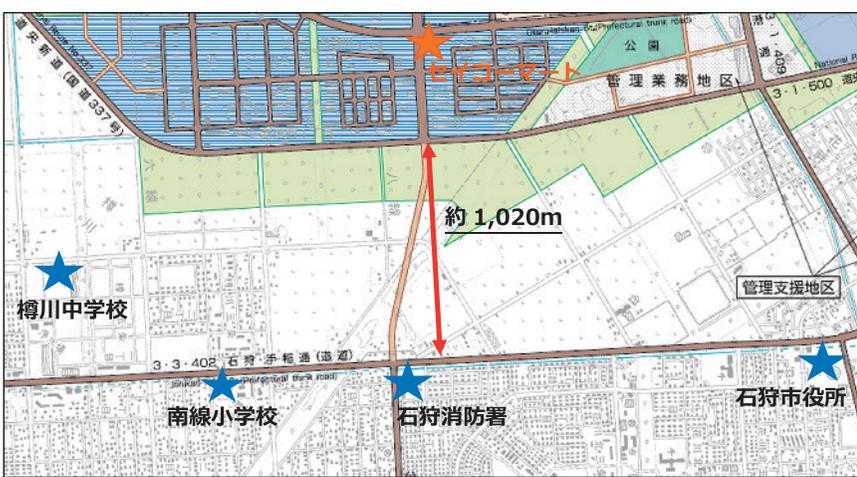


▲大東フーズ

## 花川通延伸工事が始まりました



札幌市中心部と石狩市を繋ぐ花川通(札幌市の追分通へ接続)と石狩湾新港地域の流通地区内の幹線道路である流通通に接続にする、花川通延伸工事が始まり、開通へ向け工事が進められています。



▲周辺地域図

2022年11月上空より撮影(写真上部が石狩湾新港地域)▶